

ホワイトハンドコーラスNIPPON
#第九のきせき

クラウドファンディング
\挑戦中!\

ウィーンの国連で
「第九（歓喜の歌）」を
世界中の人たちと歌いたい！



2021年12月ホワイトハンドコーラスNIPPONは鈴木優人マエストロの指揮でバッハ・コレギウム・ジャパンの皆様とベートーヴェン「第九」にチャレンジしました。ホワイトハンドコーラスNIPPONによる手歌版「第九」！いよいよ来年ウィーンで世界デビューです！2024年は第九初演から200年！日本の子ども達が「第九」演奏の新たな歴史をつくります！世界約70カ国からバリアフリーの国際会議に集まる約600名の方達と一緒にみんなで白い手袋をつけて、国連で演奏します。この一大プロジェクトをぜひ応援してください！

クラウドファンディングページは
こちら→



お問い合わせ先
「第九のきせき」 in 欧州実行委員会 事務局
visible.freude@elsistemaconnect.or.jp

「第九のきせき」

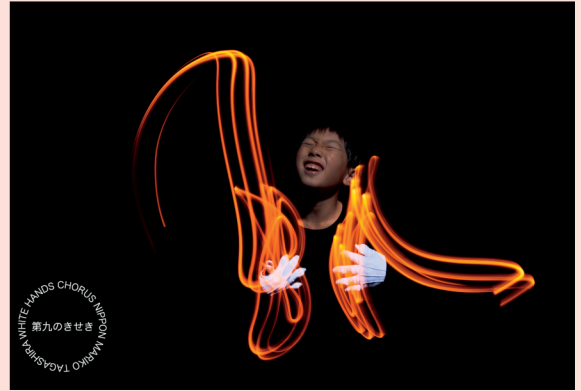
ホワイトハンドコーラスNIPPON x 田頭真理子

「第九のきせき」とは

私たちの新たな挑戦「第九のきせき」は、インクルーシブ合唱団ホワイトハンドコーラスNIPPON(芸術監督 コロン えりか)と写真家田頭真理子が、ベートーヴェンの「第九」を全く新しい表現で世界に届ける“きせき”のプロジェクトです。ホワイトハンドコーラスNIPPONは耳の聞こえない子、目の見えない子、車椅子ユーザーなど、6歳から40代の多様なメンバーが参加するユニークな合唱団。2021年、シラーの歌詞を手話に訳した手歌版「歓喜の歌」を東京芸術劇場で初演しました。写真家田頭真理子は、彼らの手からほと走るエネルギーを独自の手法で「軌跡」に残し、音楽を可視化しました。音楽や写真の枠を超えて、ベートーヴェンが苦悩を突き抜け見つけた、魂が自由になる“歓喜”とは、を問い続け、「聞こえないから音楽はわからないだろう」「写真は目が見えないと楽しめないだろう」こんな思い込みも壊せる創造に挑戦しています。そして「歓喜の歌」を世界中の人たちと、国境や障害、五感も超えて一緒に歌いたい！それが私たちの夢です。

体験型写真展 (WestLicht Museum for Photography)

ホワイトハンドコーラスNIPPONのエネルギーからインスピレーションを得た写真家田頭真理子は、指先にLEDをつけた特殊な手袋で「手歌」を軌跡に残し、シラーによる「歓喜の歌」の歌詞を写真に可視化しました。見えない人も触って楽しめる立体写真や参加者が「歓喜」の手歌を学び、体験し、撮影して展示を増やしていく“きせきの人”シリーズなど様々な創意工夫をこらしたインクルーシブな展示会を企画。ウィーンの名門ギャラリーWestLicht Museum for Photographyにて2024年2月15日-3月10日まで開催。



ウィーン国連での「第九」コンサート

2024年は、ベートーヴェンがウィーンで初めて「第九」を指揮してから200年の記念年です。ホワイトハンドコーラスNIPPONは、2024年2月23日、国連ウィーン事務所にて開催されるパリアフリーのアカデミー賞と言われるゼロプロジェクト世界会議「ZeroCon24」で、世界約70カ国から集まる代表団約600名に手歌を教えて、みんなで白い手袋をつけて「第九」を演奏します！また2月20日には、オーストリア国会議事堂での単独コンサートも予定しています。



ベートーヴェン・ハウス (ドイツ、ボン)

今年の3月、このプロジェクトの想いを届けるべく、私たちは、ベートーヴェンの生家でありその収蔵品では世界一の規模の博物館であるベートーヴェン・ハウス (ドイツ、ボン) のドアを叩いて、子どもたちのことや私たちが目指す新しい挑戦についてプレゼンをして行きました。すると「奇跡」が起きたのです・・・それから3ヶ月後、ベートーヴェン・ハウス2023-24年間プログラムに表紙含め20ページに及んで「第九のきせき」がメインビジュアルに採用されました。現在コラボイベントを計画中。



「第九のきせき」 in 欧州実行委員会

共同代表：コロン えりか/田頭 真理子
委員長：近藤 誠一
委員：鈴木 順子/谷野 啓
監事：野村 武司
事務局・広報：久保田 三千代

お問い合わせ先

メール：visible.freude@elsistemaconnect.or.jp
担当：広報 久保田三千代

5分でわかる「第九のきせき」 movie ▶

